

U.S. Indicators

発表日:2019年7月11日(木)

米国6月消費者物価

～CPIコアはインフレ目標に向けて上昇～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

消費者物価												
	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア
18/09	+0.052	(+2.3)	+0.158	(+2.17)	▲1.0	+0.1	+0.1	+0.9	▲0.5	+0.2	▲0.1	+0.3
18/10	+0.311	(+2.5)	+0.196	(+2.14)	+2.1	▲0.0	+0.3	+0.2	+1.0	+0.2	+0.3	+0.2
18/11	▲0.013	(+2.2)	+0.235	(+2.21)	▲2.8	+0.2	+0.3	▲0.6	▲1.0	+0.4	+0.2	+0.2
18/12	▲0.015	(+1.9)	+0.180	(+2.18)	▲2.6	+0.3	+0.3	+0.0	▲1.5	+0.3	+0.0	+0.2
19/01	▲0.020	(+1.6)	+0.240	(+2.15)	▲3.1	+0.2	+0.2	+1.1	▲1.3	+0.2	+0.4	+0.2
19/02	+0.174	(+1.5)	+0.110	(+2.08)	+0.4	+0.4	+0.2	+0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.2
19/03	+0.409	(+1.9)	+0.148	(+2.04)	+3.5	+0.3	+0.3	▲1.9	+1.5	+0.3	▲0.2	+0.3
19/04	+0.319	(+2.0)	+0.138	(+2.06)	+2.9	▲0.1	+0.3	▲0.8	+1.2	+0.3	▲0.3	+0.3
19/05	+0.077	(+1.8)	+0.113	(+1.99)	▲0.6	+0.3	+0.1	▲0.0	▲0.3	+0.3	▲0.1	+0.2
19/06	+0.059	(+1.6)	+0.294	(+2.13)	▲2.3	+0.0	+0.3	+1.1	▲0.7	+0.3	+0.4	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

19年6月の消費者物価(総合)は、前月比+0.059%(前月同+0.077%)と低下し、市場予想(前月比0.0%)を上回った。エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.294%(前月同+0.113%)と市場予想の同+0.2%を上回った。中国からの2000億ドルの輸入製品への関税賦課の影響で小幅押し上げられた。一方、食料品がシリアル・ベーカリー、牛肉、豚肉、果物・野菜等の下落により前月比0.0%(前月同+0.3%)と低下したうえ、エネルギーは、ガソリン、燃料油、電力などの下落によって前月比▲2.3%(前月同▲0.6%)と下落幅を拡大した。

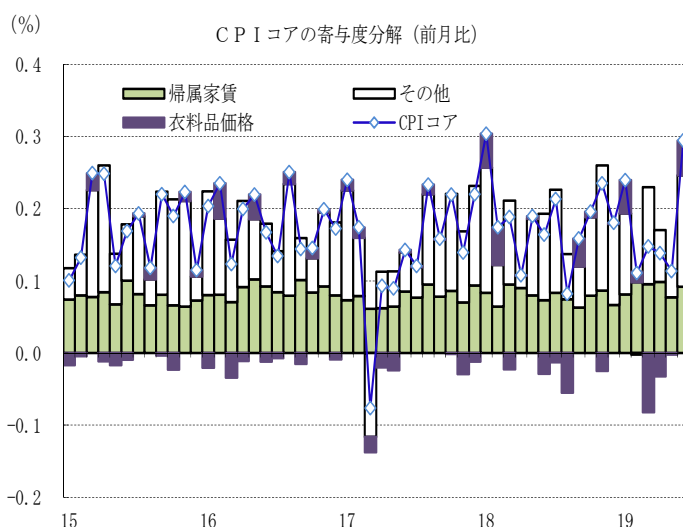
CPIコアは、衣料品、変動の大きいホテル等宿泊費、航空費などの影響により低下と上昇を繰り返しているが、均してみると、FRBの目標であるPCEコアデフレーターで+2%をやや下回る上昇を示す伸びとなっている。

CPIコアでは、商品(財)が上昇に転じたほか、サービスの伸び率が上昇した。商品(財)価格では、スポーツ器具やゲームなど娯楽商品、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が下落に転じたうえ、処方箋薬、情報機器が下落幅を拡大した。一方、衣料品、中古車、教科書等が上昇に転じたことから、商品コアは前月比+0.4%(前月同▲0.1%)と上昇に転じた。

サービスでは、航空運賃など公共サービスが前月比▲1.1%(前月同+1.9%)と下落したほか、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比▲0.7%(前月同▲0.1%)と下落幅を拡大した。また、医療保険などを含む医療サービスが前月比+0.4%(前月同+0.5%)と低下した。一方、自動車メンテナンス・修理が前月比+0.4%(前月同▲0.2%)、自動車保険が同+0.3%(同▲0.4%)、家事サービスが同+2.8%

(同▲0.6%)、その他個人向けサービスが同+0.3%(同▲0.2%)と上昇に転じたほか、賃貸料が前月比+0.4%(前月同+0.2%)、上下水道・ごみ収集サービスが同+0.3%(同+0.2%)、電話サービスが同+0.2%(同+0.1%)、レンタカーが同+4.0%(同+2.0%)、インターネットサービスが同+0.3%(同+0.2%)と上昇した。また、スポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが前月比

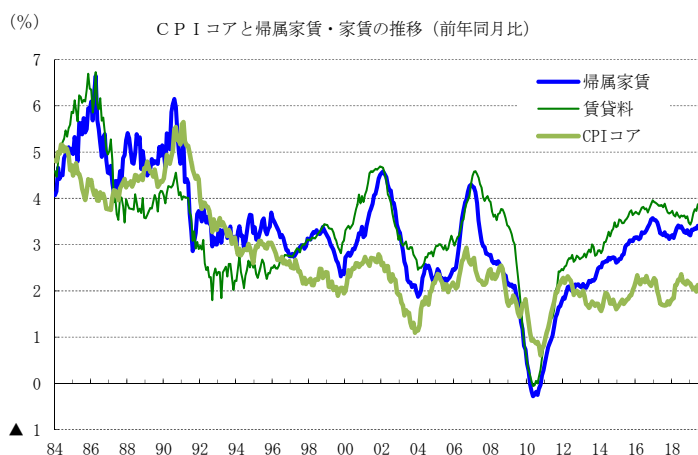
▲0.2%（前月同▲0.5%）、カーリースが同▲0.7%（同▲1.2%）と下落幅を縮小した。さらに、帰属家賃が前月比+0.3%（前月同+0.3%）と同率の上昇を続けたことから、サービスコアは前月比+0.3%（前月同+0.2%）と上昇した。



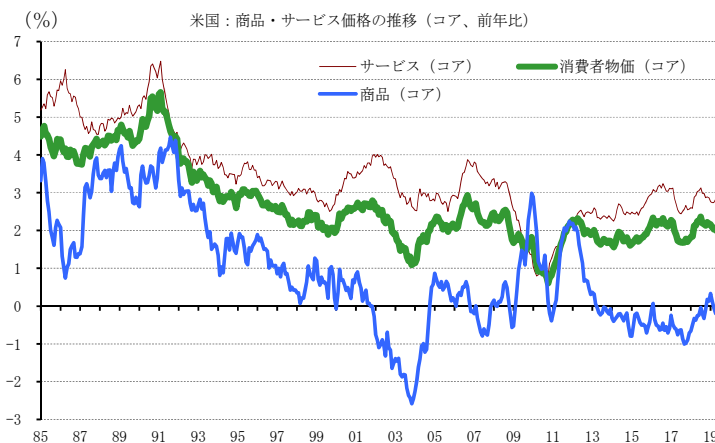
6月の消費者物価動向を前年比で見ると（以下、前年同月比）、総合が+1.6%（前月+1.8%）と低下し、市場予想の+1.6%と一致した。CPIコアが+2.1%（前月+2.0%）と上昇し市場予想の+2.0%を上回った一方、食料品が+1.9%（前月+2.0%）と低下し、エネルギーが▲3.4%（前月▲0.5%）と下落幅を拡大した。

CPIコアでは、財コアが+0.2%（前月▲0.2%）と上昇に転じた。内訳をみると、医薬品、衣料品、テレビやゲームなど娯楽商品、教科書、情報機器が下落した一方、中古車、家具などが上昇した。サービスコアは+2.8%（前月+2.7%）と小幅上昇し安定した伸びを維持した。内訳では、帰属家賃、賃料、自動車保険、医療サービス、余暇サービスなど需要の強い分野が上昇を続けた一方、カーリース、携帯などの電話サービスが下落した。

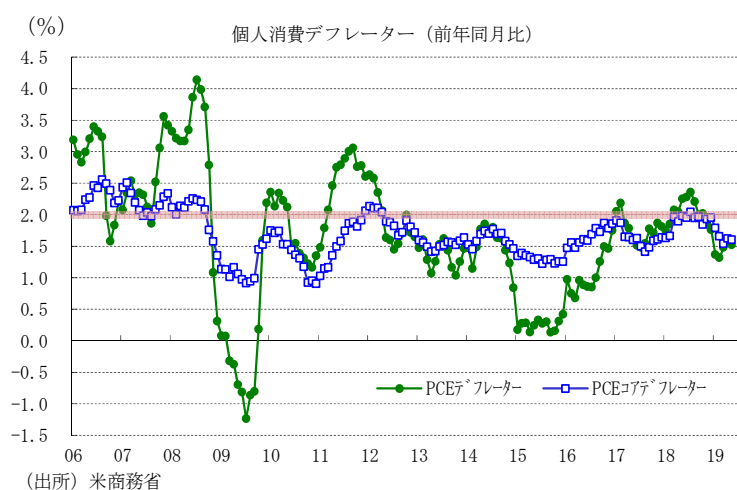
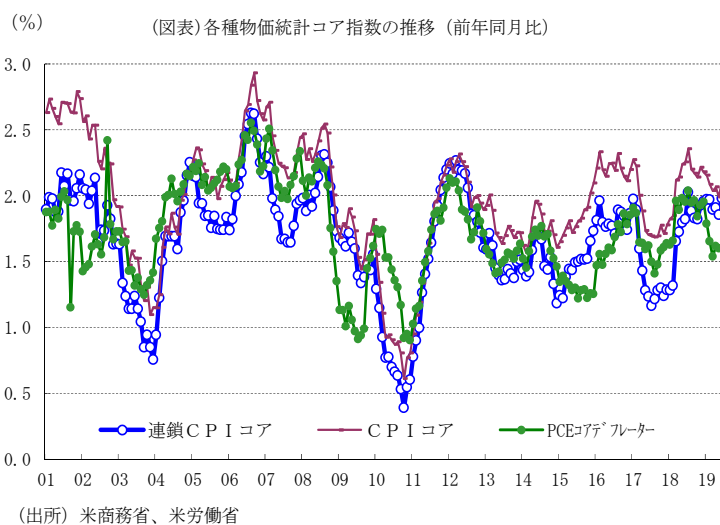
より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.98%（前月+1.85%）と上昇した。以上のように、CPIコア、連鎖CPIコアともに、PCEコアデフレーターがFRBのインフレ目標に向けて再上昇していることを示している。



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

